

平塚のお祭り ④

真田のお天王さん

平塚市真田の真田神社祭礼（7月第2日曜日）は、かつて“真田のお天王さん”と親しまれ、市域で最も賑わいをみせたお祭りでした。農家の人たちは、真田のお天王さんまでに田植えを終わらせることを目標に励み、旧祭礼日の7月9日は近郷近在から人々が群をなして参拝に訪れました。平塚市域はもちろん、東は藤沢、北は相模原、西は小田原方面からも訪れ、その賑わいぶりは今日の湘南ひらつか七夕まつりのようだったと語られます。真田神社の社殿を囲む玉垣が明治14年と昭和27年に建てられており、玉垣に刻まれた寄進者の地名から当時の信仰圏の広さをうかがい知ることができます。



行在所の神幸祭

お天王さんとは、疫病除けの神である牛頭天王社のことで、明治以降は社名を八坂神社などに改称し、祭神をスサノオノミコトとして各地に祀られています。牛頭天王社の祭が行われる夏は疫病が流行りやすく、「真田のお天王さんにお参りすれば夏病みをしない」といわれました。また、7月上旬はノアガリという農休日が村ごとに2～3日間出され、真田のお天王さんに合わせてノアガリを出す村も少なくありませんでした。

真田神社は、平安時代末期の真田の領主、真田与一が崇敬したという神社です。与一は治承4年（1180）8月23日に石橋

山の合戦で戦死を遂げますが、近世に錦絵の題材に取り上げられるなど、悲劇の英雄として後々までも庶民の人気を集めました。真田神社近くの天徳寺境内には、与一の御霊を祀る与一堂が建立されており、お天王さんの日は与一堂へもお参りするものだといわれました。明治の初め頃に、天徳寺の住職が与一堂の信仰を広めに県内各地を歩いたといわれており、それがお天王さんの信仰の拡大につながった一因かもしれません。



ホオズキ市

お天王さんの日は、神社のまわりにホオズキ市や農具市、見世物小屋などが立ち並びました。生前喘息持ちだったという与一にちなみ、ホオズキの根を煎じて飲むと喘息に効くからと、ホオズキ市が名物になりました。厳しい労働の日々から解放され、人々はひとときの娯楽をお天王さんに求めたのでした。

戦後は昭和26年から開催された七夕まつりと時期が重なり、お天王さんへの人出は急速に減っていきます。現在も境内に鉢植えのホオズキが売られていますが、かつての賑わいはありません。今は、御神輿の渡御が見所のひとつです。宵宮の19時頃、勇壮な「ヨイヤサー」の叫び声中で神輿へミタマが遷され、与一堂手前の行在所（オカリヤ）まで渡御し、一晩安置して翌日曜日の夜に還御します。



宵宮の動座式（ミタマ入れ）

（平塚市博物館学芸担当）

夏休み
特別企画

田島征三展

—豊かな絵本原画の世界—

開催期日 平成20年7月19日(土)～8月31日(日)
 会場 平塚市美術館
 開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
 休館日 毎週月曜日 ※7月21日(月・祝)は開館、22日(火)休館
 観覧料 一般400(320)円、高大生200(160)円 ※()内は20名以上の団体料金
 ※中学生以下、第2、第4土曜日の高校生は無料
 お問い合わせ 0463-35-2111

●展覧会内容●

日本を代表する絵本作家である田島征三の代表的な絵本の原画約230点に加え油彩画なども展示し、その豊かな作品世界を紹介する展覧会です。



平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方（敬称略）（平成20年1月から20年3月）

■湘南ステーションビル平塚店名店会(1.31) ■社会福祉法人 進和学園 しんわ本人自治会連合会(2.25) ■湘南ステーションビル株式会社(3.19)



発行//平塚市(文化・交流課)

●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください（今後の参考とさせていただきます） →ご意見等はEメールで（E-mail //bunkoh@city.hiratsuka.lg.jp）